

サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	産業部農林水産担当 (林業振興課)	
2 協議事項 (案件名)	林業振興について	
3 背景・現状 (現状把握で きる統計数 値など)	<p>【背景】</p> <p>2050年カーボンニュートラルを控える中、森林吸収源への期待が高まる一方で、少子・高齢化、資材価格の高騰による住宅着工数の漸減等、森林・林業業界を取り巻く環境は分水嶺を迎えつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅着工(件)/H30: 5,332 (内木造住宅 3,665)→R4: 5,082 (内木造住宅 3,194) ・木材生産量(千m³)/H30: 118、R4: 122 ・森林組合作業員(人)/H30: 173、R3: 161 <p>【現状】</p> <p>林業の成長産業化のため、新たな取組としてカーボンクレジットの創出をはじめ、更なるFSC認証材の需要拡大や生産基盤整備等の取組が不可欠。</p>	
4 検討経過・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 森林由来のカーボンクレジット創出に向け、令和4年度から民間専門人材を雇用し、各種制度の比較や創出スキーム等を検討。 ② 住宅着工数が減少する中、天竜材の需要を維持・拡大させるため、住宅助成事業の対象をFSC認証材に特化しPR効果の拡大を図るとともに、非住宅助成事業の補助メニューを令和5年度から拡充・強化。 ③ 林業生産基盤整備にあたり、新規林道を開設しない方針が課題。 	
5-1 方向性の 提案(目指 すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> ① クレジット創出による森林の価値最大化と新たな資金循環の確立。 ② 地産地消・地産外商施策の強化により天竜材の需要拡大を図り、林業成長産業化を実現。 ③ 効果的な基盤整備(林道開設等)による木材生産効率の向上・生産量の増加。 	
5-2 上記の方 向性決定 に向け議 論する事 項(妥当性、 必要性、有効 性など)	<ul style="list-style-type: none"> ① クレジットの種類には「Jクレジット(政府主導の国内版)」と「VCS(民間主導の海外版)」があるが、国内の林業形態に合った「Jクレジット」の創出を先行的に進める(「VCS」は引き続き調査を継続)。 ② 地産地消施策として、住宅助成事業等を継続実施するとともに、地産外商施策として、関西方面(大阪・関西万博)を意識した積極的なトップセールスを展開する。 ③ 従来の方針を転換し、国県補助金を有効活用するなかで、林業生産に特化した林業専用道を効果的に新規開設する。 	
6 結果	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 提案どおり進める <input type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他 	<p>具体的内容</p>
	7 その他	